

2019年度第1回公立大学法人公立諏訪東京理科大学教育研究審議会議事録

日 時 2019年5月24日(金) 15:30~16:30

場 所 6号館2階第1会議室

出席者 小越議長、松江委員、奥原委員、木村委員、大島委員、吉本委員、三枝委員

(牛山事務部長、濱財務課長、加藤教務・学生支援課長、伊藤教務・学生支援課係長)

欠席者 五味委員、市川委員、伊藤委員、井中委員、奥村委員、大崎委員

[配付資料]

1. 2018年度 業務実績報告書(案)(資料1)
2. 2019年度 年度計画(案)(資料2-1)
3. 公立大学法人の事業年度計画PDCA マネジメント・サイクルについて(資料2-2)
4. アドミッションセンターの発足について(資料3)
5. 2019年度 公立諏訪東京理科大学入学試験結果(資料4)
6. 2018年度卒業生進路状況(資料5)
7. 2019年度新入生アンケート結果(資料6)

[前回議事録確認]

前回議事録について、前議長、木村委員、吉本委員により内容を確認したことの報告があった。

[議 事]

1. 議長・学長挨拶

小越学長から、審議に先立ち挨拶があった。

併せて、西沢委員が2018年度をもって退任し、後任として三枝委員に本審議会委員を委嘱したことが報告された。

2. 会議内容

(1) 2018年度 業務実績報告書(案)について

小越議長から資料1をもとに、2018年度の業績報告書案について、自己評価として中期計画の進捗は順調であること、評価の根拠としては地域連携研究開発機構の設立や地域への知的資源の社会還元を積極的に行っていること、また、大学運営に関し、専門業務に係る効率化と適正化や外部資金の獲得、また労働環境の改善に取り組んでいること等が挙げられ、審議の結果、原案どおり承認された。

(2) 2019年度 年度計画(案)について

小越議長から資料 2-1 をもとに、業務実績を踏まえた 2019 年度の年度計画案について、県内高校からの推薦入学者や大学院進学者の増加を図るための取組みをさらに充実させること、学生の地域活動を推進していくこと、また大学運営に関しては学外有識者からの意見を反映できる体制をさらに整えること、コンプライアンス遵守に関する取組みを強化していくこと等報告があり、審議の結果、原案どおり承認された。なお、この年度計画案は 6 月開催予定の理事会に諮り、一部事務組合に届け出る予定であることが報告された。

(3) アドミッションセンターの発足について

加藤教務・学生支援課長から資料 3 をもとに、アドミッションセンターを 5 月 1 日に設置したこと、センターでは入学試験に関する様々な事項や学生募集広報活動を一体的に検討し、学長のガバナンスのもとでアドミッションポリシーに即した適切な入学者選抜を行っていくこと等説明があった。

(4) 2019 年度入試状況について

加藤教務・学生支援課長から資料 4 をもとに、2019 年度入試の志願倍率が全体で 5 倍であったこと、合格者の入学比率は 0.67 倍であり一般入試中期日程を実施している影響から他国公立大学と比べ若干低い状況であったこと、学科により志願者数に偏りが見られたこと、入学者に占める長野県出身者の割合が前年度より増加したこと、東海地域からの入学者が多かったこと等報告があった。

(5) 2018 年度卒業生進路状況について

加藤教務・学生支援課長から資料 5 をもとに、2018 年度卒業生の進路状況について、就職率は学部合計で 96.5%であったこと、県内への就職者数が 6 割以上を占めるが入学者の県内出身比率減少により今後は変化が予想されること、進学希望者は全員が進路を決定したこと等報告があった。

(6) 2019 年度新入生アンケート結果について

加藤教務・学生支援課長から資料 6 をもとに、2019 年度新入生アンケートの結果について、本学を認知したきっかけや入学を決めた理由に高校教員を挙げる入学者が増加しており高校教員からの認知度が向上していること、大学院進学希望者が増加しており、卒業後の進路動向も大きく変わることが予想されること、入学時点で勉強について不安に感じていると回答した学生が多かったことから、実際に勉学に取り組んでいる現在の状況を把握する必要があること等報告があった。

最後に、次回の教育研究審議会は7月19日(金)に実施を予定していることが確認され、今回の議事録確認者として三枝委員、奥原委員の2名を小越議長が指名した。

以上